

研究ノート

金融機関の社会的責任活動(金融CSR)の調査と評価(2008) ——高知市所在の銀行と証券会社に対する学生による金融CSR評価の試み——

紀 国 正 典

はじめに

本稿は、わたしの専門演習ゼミに所属する3年生が、わたしの指導の下で自分たちで工夫して取り組んだ研究調査活動の報告書である。この研究調査活動の意義と目的については、次の第1章で述べたとおりである。この取組みは、当初、演習授業における教育方法の改革を意図してのものであった。しかしこれを続ける内に教育活動としての成果だけでなく、金融の公共性と社会的責任金融教育という点での社会的意義を確認できたので、これらの成果を本学会誌に発表してきた。

2008年9月、米証券大手のリーマンブラザーズ破たんが始まったアメリカ発の世界金融危機は、世界を奈落の底に引きずり込んだ。高給をむさぼりながらリスクは世界に丸投げするというずさんなリスク管理と無責任金融が、このような深刻な事態を引き起こしたのである。これを予防するためにはリスク管理と情報開示そして金融機関の社会的責任意識の強化が不可欠になっており、本報告書が示したような金融機関に対する社会的責任評価の意義と重要性はますます高まっている。

今回の研究調査報告書は、前回に続いて金融機関の社会的責任活動(金融CSR)について、調査と評価を試みたものである。ただし調査と評価方法は学生たちが自主的に議論して決めたものなのでその方法は前回と異なっており、

今回についても独創的なものになった。

この研究調査活動に加わり報告書作成に奮闘していただいた学生諸君は、安部共紀君、石原正樹君、尾崎真巳さん、城戸雅敏君、源島彩子さん、合田陽香さん、谷脇悠君、濱川幸宣君、日高哲平君、平井史昭君、丸岡友果さん、山下ほなみさん、小笠原彰敏君、末澤俊明君の14名である。掲載を快く承諾していただいた学生諸君に謝意を表するものである。ただし、その内容についての責任は、本報告書を指導して監修した紀国にある。

1 本調査・評価活動の意義・目的および講評（指導教授）

この調査・評価報告書は、高知大学人文学部社会経済学科における専門演習紀国ゼミに所属する学生（3年生14名）が、ゼミ学習活動として主体的に取り組んだ研究調査結果をまとめたものである。

指導教授である高知大学人文学部教授（金融論・国際金融論）の紀国正典が、学生に提示したこの研究調査活動の意義と目的は、次の三つである。

- （1）金融機関が、金融機関の社会的責任活動（金融CSR：Corporate Social Responsibility for Financial Community）という点で、どのような活動や取り組みを展開しているかどうか、これを調査すること、そしてそのデータを評価して金融機関を格付けしてみること。
- （2）学生みずから金融機関の公表情報を主体的に調査・分析・評価することによって、金融に関する現実的な知識や感覚を身につけるとともに、金融についての社会的責任意識を高めること。
- （3）就職活動に不可欠である会社研究の重要性について意識を高めること。

本調査・評価報告書がこのような形を成すまでには、いろんな困難があった。今年度は14人と大人数のゼミになってしまったので、三つの班に分けて議論をしその結果を集約してまたフィードバックするなどの試みをしたが、それでも全体の合意がまとまるまでには時間を要した。しかも企業による求人活動がいつものように3年生時の11月には始まり、折からの金融危機のあおりをくって就職活動は第2次氷河期を迎えたようで、厳しい就職活動のために欠席せざる

を得ない学生が続出した。このため全員の参加がますます難しくなっていく、作業も長期化し、それとともに学生の集中力も欠け始めた。その内に、卒業論文の準備にも取りかからなくてはならなくなり、報告書を完全な形で完成させるまでの時間的余裕はなくなってしまった。

以上のような事情で、今回については報告書の完成はとても無理であろうと、断念しかかった。しかし学生達が熱心に議論して取り組んだ成果を前にして、このまま流れてしまうことになっては実に惜しいと感じるようになった。学生が真剣に議論してまとめた金融CSRの評価方法と評価基準については、金融CSR評価の方法論の一つとして引き継がれるべき内容がある。また学生が丁寧に調べて自分の意見や感想を示したコメント評価には、金融CSR活動のあり方として参考になる材料が多く含まれている。さらに銀行だけではなく証券会社にも調査対象を広げた意欲作である。

このようなことから、完全完成版ではなくても、出来た所までを簡素な形で報告書にまとめてもらうことにした。したがって今回については、点数評価についての全体でのコメントや総合評価についての総括的議論そして調査・評価活動のまとめもない。それでも上記の理由から報告書にまとめるだけの価値はあると思う。

なお、ウェブ調査の限界もあり、金融機関が実際に取り組みをしてもウェブ上の情報発信を怠っていたり目立たなかったりして、学生の目にとまらなかった取り組みもあると思われる。金融機関には、わかりやすい情報発信と情報開示にいつそう努力していただくようお願いしたい。金融機関に関する情報は、金融機関の私物ではなく、社会のもの(公共財)だからである。

2 本調査・評価活動の概要と経過

本調査・評価活動の概要と経過は次のとおりである。

2008年5月～7月

予備学習：参考文献にあげた金融CSRに関する文献資料や教材DVDで学習した。

2008年9月

ゼミ合宿：金融庁の実施した金融CSRアンケートを教授が整理した文献の学習成果を報告し、重要だと思われる取組み内容をまとめた。

2008年10月～11月

評価方法についての議論：ゼミ合宿の成果に基づき金融CSRの評価方法と評価基準および点数評価方法について議論を進めた。12月2日に全体で合意をみた。

2008年12月～2009年3月

調査と評価の実施：各自が金融機関のホームページにアクセスして、調査と評価を実施した。

2009年4月～6月

点数評価の集計とコメント評価の整理：各自の点数評価結果を合計して順位を出した。また各自のコメント評価を一覧にし、抽象的な内容と重複するものを削除して精査した。

2009年11月～12月

報告書の作成作業：出来た所までを報告書にまとめた。

2009年12月15日

報告書の完成。

3 金融CSRについての調査と評価の方法

3-1 評価方法と評価基準

金融CSR活動を、①コンプライアンスに関する取組み、②顧客・消費者に関する取組み、③従業員に関する取組み、④環境保全に関する取組み、⑤地域・社会貢献に関する取組みの五つの分野に分けて、評価することにした。

夏ゼミ合宿の課題は、この五つの項目のそれぞれについて、各自が重要だと思う取組みを三つ報告することであった。そしてゼミ合宿では三つの班に分かれて議論を行い、各班で重要だと考える取組みを四つにまとめた。

これらの成果を基に、10月から2ヶ月を費やして、全体で合意できる共通の

第1表 基準評価項目

<p>(1) コンプライアンスに関する取組み</p> <p>①ホットラインや内部通報制度の設置。②コンプライアンスの専門部署、担当者 と責任者の配置。③コンプライアンス・マニュアルの制定。④勉強会や研修会の 開催による従業員教育。</p>
<p>(2) 顧客・消費者に関する取組み</p> <p>①高齢者や体の不自由な方に配慮した店舗、ATMのバリアフリー化など環境づ くり。②お客様カードやコールセンターなどによる意見の把握と適合性の審査体 制。③業務時間の拡大(日曜日営業や子供の下校時間までの営業)。④ディスクロー ジャー誌等による情報開示。</p>
<p>(3) 従業員に関する取組み</p> <p>①仕事と家庭を両立できる職場環境づくり(育児休暇や介護休暇の充実など)。 ②メンタルヘルスケア。③障害者雇用などの雇用環境と支援体制の充実。④従業 員の資格支援の充実。</p>
<p>(4) 環境保全に関する取組み</p> <p>①環境負荷の軽減(ペーパーレス化、両面印刷、再生紙、省エネ、ゴミの削減など)。 ②環境問題対策に関連する環境関連金融商品や環境関連投資信託の有無。③世界 的環境保全への投資や寄付。④他の企業と協力して環境保護に取り組むこと。</p>
<p>(5) 地域・社会貢献に関する取組み。</p> <p>①金融・経済教育などの講座の取組み。②スポーツ、文化活動の奨励。③災害な どに対する支援や寄付。④医療や地域活性化などの支援と取組み。</p>

評価基準項目を決める議論を進めた。こうして出来上がったものを共通の基準項目とした。第1表に掲げたものがそれである(第1表参照)。これらの取組みについての金融機関の実施状況をホームページの記述で調査して、点数評価を実施するのである。

この議論を進めるなかで、ホームページの「記述のわかりやすさ」と、ホームページの「サイト内検索の使いやすさ」についても点数評価しようということになった。そしてこの二つの項目の点数評価も加えて、基準評価点とすることにした。

基準評価点=基準項目評価+記述のわかりやすさ+サイト内検索の使いやすさ
共通の基準項目を決める議論においては、各班の独自の評価基準の取り扱いと特定の取組みや項目を重点評価すべきかが論点になった。この議論は、

個々人の独自の基準によって評価できる個人評価点を設けることで一応の解決をみた。そして点数評価は、基準評価点と個人評価点を合計して出すことにした。

点数評価点＝基準評価点＋個人評価点

さらにこれらの点数評価には反映されない具体的な取組み状況を評価するために、各自が意見や感想を率直に表明するコメント評価を実施することにした。

なお、点数評価の方法についても議論し、次のようにすることで意見がまとまった。

「記述あり」の点数評価方法。

0点：記述なし，1点：いちおう記述あり，2点：まあまあ記述あり，3点：大いに記述あり。

「記述のわかりやすさ」の点数評価方法。

0点：記述なし，1点：わかりにくい，2点：まあわかりやすい，3点：大いにわかりやすい。

「サイト内検索の使いやすさ」の点数評価方法。

0点：サイト内検索なし，1点：使いにくい，2点：まあ使いやすい，3点：大いに使いやすい。

「個人評価点」の点数評価方法方法。

0点：評価しない，1点：いちおう評価，2点：まあまあ評価，3点：大いに評価。

3-2 調査方法と調査対象金融機関

調査と評価の入力と集計には、マイクロソフト社のエクセルのワークシートを用いることにした。上記の評価基準をワークシートの行見出し項目に入力し、列見出し項目に金融機関名を入れたファイルを作成して、これを高知大学人文学部のWebサイトにあるSOULS (System for Online University Learning Support：オンライン学習支援システム)の紀国ゼミ掲示板に、添付ファイルでアップした。

このファイルを各自でダウンロードし、金融機関のホームページにアクセスして、調査と評価を実施し、その内容をファイルに入力でき次第、氏名と日付を入れてゼミ掲示板に添付ファイルであげることにした。

毎週のゼミにおいては、パソコンを持参し、各自が作成したこれらのファイルを各班で集計し、報告と議論をすすめることにした。

調査対象の金融機関については、高知市に本店や支店が所在する次の12行の銀行を調査対象にすることにした。また証券会社についても高知市に支店がある次の7社の会社を調査対象に定めた。

(高知市所在銀行)

四国銀行 高知銀行 高知信用金庫 阿波銀行 徳島銀行 百十四銀行

香川銀行 愛媛銀行 伊予銀行 三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 りそな銀行

(高知市所在証券会社)

阿波証券 香川証券 大和証券 東海東京証券 日興コーディアル証券

野村証券 三菱UFJ証券

4 コンプライアンスに関する金融CSR活動の調査と評価

コンプライアンスに関する金融CSR活動について、銀行と証券会社の取組みに対して行った点数評価とコメント評価の結果は、次のようになった。点数評価とは、各自が行った点数評価の結果を合計し順位を出したものである。コメント評価とは、それぞれの金融機関について各自が行ったコメントを集計し、抽象的な内容や重複するコメントを削除するなどして、全員で精査して整理したものである。

4-1 点数評価

コンプライアンスに関する取組みの点数評価結果を表にまとめたものが、第2表である(第2表参照)。

この表において基準評価点の「記述あり」とは、①ホットラインや内部通報制度の設置、②コンプライアンスの専門部署、担当者と責任者の配置、③コンプライアンス・マニュアルの制定、④勉強会や研修会の開催による従業員教育、についてのホームページ記述の状況を点数評価したものである。

総合順位で上位6社になった金融機関は、第1位が野村証券、第2位が百十四

第2表 コンプライアンスに関する取組みの点数評価と順位

	基準評価点						個人 評価点	合計点	順位	
	記述あり				記述の わかり やすさ	検索の 使い やすさ			銀行・ 証券別 順位	総合 順位
	①	②	③	④						
四 国 銀 行	6	29	31	22	26	27	19	160	5	6
高 知 銀 行	27	32	26	9	28	11	16	150	7	8
高知信用金庫	8	16	9	8	12	9	11	73	12	15
阿 波 銀 行	11	31	27	31	24	12	24	160	5	6
徳 島 銀 行	9	33	22	9	25	11	13	122	8	9
百 十 四 銀 行	31	33	29	28	31	30	24	206	1	2
香 川 銀 行	7	27	20	5	21	8	12	99	10	12
愛 媛 銀 行	4	15	15	9	17	22	9	91	11	13
伊 予 銀 行	5	25	17	14	19	25	11	114	9	11
み ず ほ 銀 行	23	34	32	19	31	29	21	192	3	4
り そ な 銀 行	37	28	32	17	32	29	18	193	2	3
三菱東京UFJ銀行	24	32	20	18	29	25	18	166	4	5
阿 波 証 券	0	0	0	0	0	0	1	1	7	19
香 川 証 券	0	0	5	3	4	4	3	18	6	18
大 和 証 券	9	12	6	9	10	12	6	60	5	17
東 海 東 京 証 券	10	15	15	4	13	16	6	79	3	14
日興コーディアル証券	2	15	6	11	15	14	6	69	4	16
野 村 証 券	36	34	26	28	30	30	24	208	1	1
三 菱 UFJ 証 券	9	29	16	14	18	21	12	119	2	10

銀行、第3位がりそな銀行、第4位がみずほ銀行、第5位が三菱東京UFJ銀行、第6位が四国銀行であった。下位グループには、証券会社が多かった。

銀行順位における上位4行は、第1位が百十四銀行、第2位がりそな銀行、第3位がみずほ銀行、第4位が三菱東京UFJ銀行であった。ただし百十四銀行については、コメント評価でも言及があったように、大阪で起きた暴力団関係会社への不正融資事件はこの評価と期待を裏切るものであった。

証券会社についての上位3社は、第1位が野村証券、第2位が三菱UFJ証券、第3位が東海東京証券となった。

4-2 コメント評価

四国銀行

- ・プライバシーマークの付与認定を受けている。
- ・毎年コンプライアンス・プログラムを策定、毎月勉強会を実施することなど、教育に力を入れていることがわかる。
- ・コンプライアンスの専門部署について詳しく書かれていた。
- ・文字ばかりなのでもう少し工夫があって欲しい。
- ・ディスクロージャー誌のままを掲載しているため検索が難しく、また冊子をそのままのせてるため読みづらい。
- ・コンプライアンスの組織図が載っていてわかりやすいが、具体的な数字の記述がない。

高知銀行

- ・内部通報制度なども設けており、充実したコンプライアンスを行っていると感じた。
- ・コンプライアンスについての連絡先を載せている事が評価できる。
- ・ホットライン(内部通報制度)あり。勉強会なし。監査部の会議が1ヶ月に1回。コンプライアンス会議は3ヶ月に1度。
- ・携帯できるチェックカードや職員の自己チェック表など、独自の取り組みを評価する。
- ・内部通報制度があるのだから具体的事例等が欲しい。
- ・勉強会についての内容の詳しいものが欲しかった。
- ・全体的に簡素で抽象的な記述が多い。

高知信用金庫

- ・コンプライアンスの記述はなかった。
- ・記述はなかったが採用ページで内部監査・コンプライアンス・CSコミュニケーションの資格支援があった。資格は自発的。
- ・コンプライアンスの統括部署はある。
- ・外部に委託してコンプライアンスに関してチェックしているとあるが、内部通報制度や従業員の研修については記載がなくどこまで行き届いているのか

わからない。

- ・ガバナンス組織にコンプライアンス会議がおかれ、コンプライアンスに力を入れている。

阿波銀行

- ・全店舗に監査責任者配置，階層別研修会，月1の勉強会，年2回全店舗職員に対するコンプライアンス・チェック。
- ・コンプライアンスの専門部署はなく経営管理委員会が統括する形をとっている。
- ・内部通報に関してあいまいだったので，そこをはっきりすべきである。
- ・②については監査体制はあるようだが，経営者が管理しているようでどこまで透明性があるかわからない。

徳島銀行

- ・コンプライアンス委員会を毎月開催。
- ・コンプライアンス・マニュアルを全役職員に配布しているが，勉強会はないようだ。
- ・不祥事事件が発生している。その後，取組みを強化していると思った。
- ・内部通報制度や従業員の研修について述べられていなかった。

百十四銀行

- ・内部通報制度なども設けており，充実したコンプライアンスを行っていると感じた。
- ・コンプライアンスを浸透させるためにコンプライアンス・プログラムを実際に行っている。ただし不祥事が気になるところではある。
- ・ホットラインあり。
- ・役員・担当者の研修やチェックリストがあるのが良い。
- ・コンプライアンスの啓蒙ポスターを全店に配布していたり，教育，研修面でも取締役・監査役もセミナーを受講するなどの記述があった。コンプライアンスの意識が高いと思った。

香川銀行

- ・コンプライアンス・プログラムを策定し定期的に評価をしている。
- ・全職員がコンプライアンス・カードを持っているが，定期的な勉強会はない

ようだ。

- ・コンプライアンス・カードがホットラインと同じ役目をしている

愛媛銀行

- ・年に二回コンプライアンス自己チェックを行っている。
- ・職員への教育は研修と配布資料程度。年2回自己チェックがある。
- ・ホットラインについての記述がなかった。

伊予銀行

- ・パートタイマーを含めての研修がある。
- ・マニュアルは毎年作る。勉強会もひらかれるが、頻度がわからない。
- ・ホットラインについての記述がなかった。
- ・コンプライアンス・プログラムを毎年策定している。

みずほ銀行

- ・社内だけでなく社外でも通報を受け付けるホットラインがある。
- ・体制は整っているが、配布・研修のみで一般社員にどこまで浸透しているかはわからない。
- ・モニタリングも行っている。社内外から通報を受けつける「会計、財務報告に係る内部統制、監査に係るホットライン」も設置してる。

りそな銀行

- ・二つのホットラインを設けており、充実したコンプライアンス体制をとっている。
- ・りそなグループでのホームページに記述あり。「コンプライアンス」検索で一発で見つかった。
- ・ホットライン利用件数など、銀行としてはあまり公表したくないであろう数値も入れていたので逆に好感が持てた。

三菱東京UFJ銀行

- ・コンプライアンスに基づく順守状況の調査と報告。
- ・全店舗月1の研修会を行う。また半年に1度理解度テストを行う。
- ・外部の専門家からなるコンプライアンス専門委員会がある。
- ・ワンクリックで見つかるため見つけやすい。またPDFではなくホームペー

ジ上公開なのでみやすい。ただ文章ばかりでわかりづらいところはある。

阿波証券

- ・記述なし。
- ・見つからなかった。ただ、ホームページ上に個人情報等の方針や勧誘に関する方針がある。

香川証券

- ・記述がない。
- ・コンプライアンスに対する取り組みは見られなかった。
- ・一応コンプライアンスに関する文書はあったが、基本方針についてのみで実際に行っていることはわからなかった。
- ・倫理コードと呼ばれるものがコンプライアンス・マニュアルに当たるものなのかかわからないが一応これだけはあった。

大和証券

- ・研修のみでその他特別なものはない。
- ・コンプライアンスの説明が見つからなかった。
- ・概念図に記載があったが説明はほとんどなし。

東海東京証券

- ・コンプライアンス実施状況を報告。
- ・検索して発見。ただしPDFだったため見づらかった。
- ・記載なし（プレミアハウスを指してという項目にコンプライアンス体制の整備という言葉があったが説明はなし）。
- ・一応、コンプライアンス委員会というものが存在している。

日興コーディアル証券

- ・全役社員対象のコンプライアンス・テストを実施している。
- ・コンプライアンス・テストの結果が見えるようにして欲しい。
- ・コンプライアンスに関する記述が少なかった。
- ・行動規範等でそれらしい記述発見。ただし具体的活動は謎。

野村証券

- ・内部通報制度と弁護士ホットラインなども設けており、充実したコンプライ

アンスを行っていると感じた。

- ・毎月コンプライアンスに関する勉強会を開くなど、教育に力を入れている。
- ・野村社員のインサイダー取引に対する信頼回復に向けての記載に好感が持てた。

三菱UFJ証券

- ・どこに書いてあるのか探しにくかった。ディスクロージャー誌の中身も抽象的かつ見づらかった。
- ・記載はあるが内容も乏しいうえにわかりにくいといった印象。

5 顧客・消費者に関する金融CSR活動の調査と評価

顧客・消費者に関する金融CSR活動について、銀行と証券会社の取組みに対して行った点数評価とコメント評価の結果は、次のようになった。点数評価とは、各自が行った点数評価の結果を合計し順位を出したものである。コメント評価とは、それぞれの金融機関について各自が行ったコメントを集計し、抽象的な内容や重複するコメントを削除するなどして、全員で精査して整理したものである。

5-1 点数評価

顧客・消費者に関する取組みの点数評価結果を表にまとめたものが、第3表である(第3表参照)。

この表において基準評価点の「記述あり」とは、①高齢者や体の不自由な方に配慮した店舗、ATMのバリアフリー化など環境づくり、②お客様カードやコールセンターなどによる意見の把握と適合性の審査体制、③業務時間の拡大(日曜日営業や子供の下校時間までの営業)、④ディスクロージャー誌等による情報開示、についてのホームページ記述の状況を点数評価したものである。

総合順位で上位6社になった金融機関は、第1位がりそな銀行、第2位が百十四銀行、第3位がみずほ銀行、第4位が三菱東京UFJ銀行、第5位が伊予銀行、第6位が四国銀行であった。この取組み項目においても、下位グループには証券会社が多かった。

第3表 顧客・消費者に関する取組みの評価と順位

	基準評価点						個人 評価点	合計点	順位	
	記述あり				記述の わかり やすさ	検索の 使い やすさ			銀行・ 証券別 順位	総合 順位
	①	②	③	④						
四国銀行	17	20	9	32	26	25	13	143	6	6
高知銀行	1	13	5	23	15	10	12	77	10	14
高知信用金庫	4	12	3	18	15	8	7	67	11	16
阿波銀行	6	24	7	28	27	8	19	117	7	8
徳島銀行	5	23	10	26	22	9	15	110	9	11
百十四銀行	35	28	8	34	32	33	29	199	2	2
香川銀行	2	5	6	27	16	4	7	67	11	16
愛媛銀行	4	5	13	29	23	23	16	112	8	10
伊予銀行	19	28	12	33	29	29	24	174	5	5
みずほ銀行	38	28	9	36	30	29	26	196	3	3
りそな銀行	27	29	22	34	34	31	29	203	1	1
三菱東京UFJ銀行	26	31	8	31	32	27	27	182	4	4
阿波証券	3	2	0	0	1	0	1	7	7	19
香川証券	0	3	0	3	2	0	2	10	6	18
大和証券	2	18	7	10	12	14	6	69	5	15
東海東京証券	3	22	1	9	19	17	11	80	4	13
日興コーディアル証券	1	27	2	23	23	20	13	110	3	11
野村証券	18	22	2	26	24	25	12	120	1	7
三菱UFJ証券	1	38	4	23	23	25	11	115	2	9

銀行順位における上位4行は、第1位がりそな銀行、第2位が百十四銀行、第3位がみずほ銀行、第4位が三菱東京UFJ銀行であった。

証券会社についての上位3社は、第1位が野村証券、第2位が三菱UFJ証券、第3位が日興コーディアル証券となった。

5-2 コメント評価

四国銀行

- ・顧客のニーズにあった商品を提供している。
- ・顧客に優しいバリアフリー化が進んでいるので今後期待したい。

- ・各店舗の検索はやりやすかった。ワンクリックで条件等を指定してすぐ見つかる。しかし、店舗内のサービスについては日曜営業等があったが、バリアフリー等は見当たらなかった。
- ・記載に乏しいといった印象。
- ・ディスクロージャー誌が充実していた。

高知銀行

- ・専属の社会保険労務士による年金相談を実施している。
- ・顧客の声が反映されているのかがわからないし、バリアフリーなどにも力を入れていないように思えた。
- ・②については適合性の審査のことのみ大まかに記載があった。④は具体的にはなかったがコーポレートガバナンスのところで強化しているとあった。
- ・お客様相談室Gがあるので、お客様の意見を反映しやすい体制があると思った。インターネットバンキングに積極的に力を入れていると思った。
- ・見づらい。

高知信用金庫

- ・顧客・消費者に関する記述無し。
- ・字が小さくて疲れる。読み手のことを考えていない。
- ・商品紹介への記述ばかり目立つ。
- ・ATM店舗検索がやりづらい。またバリアフリー等記述なし。
- ・④はディスクロージャー誌ではないが情報冊子を定期的に刊行している。
- ・ATM使用料が時間外でも無料なのが魅力的。非常用自家発電装置を設置していて、もしもの時に備えている。
- ・ディスクロージャー誌が見づらい。

阿波銀行

- ・店舗のバリアフリー化についての記述が欲しいと感じた。
- ・インターネット・バンキングにより24時間取引可能。
- ・お客様ご意見カードやアンケートが多い。
- ・「お客さま第一」といっているだけあって記述も多かった。
- ・②については相談のさまざまな例が挙げられていて、きめ細かく相談にのっ

てくれそう。お客様第一対応宣言が興味深かった。

徳島銀行

- ・顧客に対し、詐欺にあわないように注意を促している。
- ・検索しにくい。特に記述がなかった。またお客さまアンケートについてきめ細かいフィードバックがなされていて好印象。
- ・休日相談窓口というのが他行にはなく独自性があり良いと思った。
- ・お客様アンケート等の結果を公表している。

百十四銀行

- ・コンプライアンス同様にわかりやすくCSR活動について書かれている。
- ・顧客のニーズに応えられるように「資産運用・ローンアドバイザー」や「資産運用チーフアドバイザー」を設置。
- ・偽造・盗難カードによる被害防止への対策として、身体認証対応ICキャッシュカードを取り扱っている。
- ・耳の不自由な方や外国人のためのコミュニケーションボードの設置やATMのバリアフリー化、店舗へ杖ホルダーの設置など、障害者の利用しやすい店舗を目指している姿勢が良い。
- ・バリアフリー化について何か取り組もうという姿勢が感じられた。また、ディスクロージャー誌もカテゴリ分けされており読みやすかった。

香川銀行

- ・顧客・消費者に関する記述無し。
- ・電話で残高照会といった手続きが出来るテレホンサービスがある。
- ・土、日曜日にローン相談を行っている。
- ・銀行と顧客とのあり方などについて書いてあったが、具体性はなく項目には当てはまらないと判断した。

愛媛銀行

- ・顧客・消費者に関する取り組み発見できず。
- ・インターネットで問い合わせが出来る。
- ・CSRカードの全従業員への配布を評価。
- ・ボーチェ店舗が休日営業をしているということ、またそういった地域に密着

したサービスを行う店舗を出すところに共感した。

- ・インターネットバンキングが充実している。

伊予銀行

- ・積極的に店舗やATMのバリアフリー化に取り組んでいる。
- ・ご相談専用ブースの設置。
- ・段差のない店舗が9割強。体が不自由な方のための現金配達システムあり大いに評価できる。
- ・お客様モニター会という活動は顧客満足度の向上につながる良い活動だと思う。

みずほ銀行

- ・バリアフリー化が地方の店舗でも進んでいる。
- ・体の不自由な方や高齢者などへの対応をまとめたマニュアルを社員に配布するなど、接客の取組みも積極的に行っている。
- ・ディスクロージャー誌は文字ばかりがズラッと並んでいてわかりにくい

りそな銀行

- ・コミュニケーションボードの設置。バリアフリーの記述は曖昧。
- ・土曜日営業店の拡大について評価できる。
- ・顧客の声を形にする態勢がしっかり整っているようだ。ホームページの形式もみやすく好印象だった。
- ・AEDを設置している店舗がある。
- ・消費者向けのセミナー開催など、充実しているように思う。
- ・お客様サービス部の設置や地域特性に合わせた店舗の提供が非常に興味深い。

三菱東京UFJ銀行

- ・高齢者や体の不自由な方に対する記述はないが、活動の幅が広いと感じた。
- ・個人のお客だけでなく法人のお客の満足度を調査。
- ・スロープの色を変えてわかりやすく。コミュニケーション・カード設置。
- ・コミュニケーション・カードのアイデアを評価。
- ・店舗情報は地図が付いていて見やすい。
- ・顧客からの声のいい部分も直していくべき部分も、包み隠さず公表する姿勢に好感が持てた。CS(顧客満足)のためのシステムが確立されている。

阿波証券

- ・顧客・消費者に対する取り組みは見られなかった。
- ・ディスクロージャー誌が見当たらず、情報開示が少ないように思えた。

香川証券

- ・顧客・消費者に対する取り組みは見られなかった。
- ・ディスクロージャー誌はないが、営業情報を載せていた。
- ・阿波証券と同様、ディスクロージャー誌が見当たらず、情報開示が少ないように思えた。

大和証券

- ・顧客・消費者に対する取り組みは見られなかった。
- ・ディスクロージャー誌はないが、営業状況を載せていた。
- ・お客さまの声を重視している点が評価できる。
- ・店舗検索が良かった。

東海東京証券

- ・該当する記述がほとんどなかった。
- ・店舗検索は良いが、あとは見づらい。
- ・特色のある店舗作りをしている。
- ・マナーの向上を求める声が顧客からあげられているのはどうかと思う。しかしよくそれをホームページ上に公開出来たなと思う。

日興コーディアル証券

- ・お客様の声を聞くのに力を入れている。またホームページが見やすい。店舗情報は地図&説明会情報があり見やすい。
- ・コールセンターなどの顧客の声を聞くシステムが主にこの項目に当てはまる活動だった。
- ・調べやすいホームページである。
- ・ディスクロージャー誌が読みづらい。

野村証券

- ・バリアフリー以外の項目発見できず。
- ・サイト内検索が使いにくい。

- ・ホームページ上でお客様向けのコーナーが作ってあった。
- ・このホームページをふくめ情報の開示が進んでいるなど感じた。
- ・理念や取り組みについての記述は充実していたが、②についてもっと書いてほしい。

三菱UFJ証券

- ・お客さまの声を重視している点が評価できる。
- ・店舗検索が使いづらい。また店舗別ごとにセミナーをおこなっているらしい。
- ・顧客の声の反映についての記述が丁寧だったので、その姿勢に好感が持てた。
- ・ディスクロージャー誌は数値ばかりでわかりにくかった。ディスクロージャー誌の記述の仕方に工夫が見られないように思う。

6 従業員に関する金融CSR活動の調査と評価

従業員に関する金融CSR活動について、銀行と証券会社の取組みに対して行った点数評価とコメント評価の結果は、次のようになった。点数評価とは、各自が行った点数評価の結果を合計し順位を出したものである。コメント評価とは、それぞれの金融機関について各自が行ったコメントを集計し、抽象的な内容や重複するコメントを削除するなどして、全員で精査して整理したものである。

6-1 点数評価

従業員に関する取組みの点数評価結果を表にまとめたものが、第4表である(第4表参照)。

この表において基準評価点の「記述あり」とは、①仕事と家庭を両立できる職場環境づくり(育児休暇や介護休暇の充実など)、②メンタルヘルスケア、③障害者雇用などの雇用環境と支援体制の充実、④従業員の資格支援の充実、についてのホームページ記述の状況を点数評価したものである。

総合順位で上位6社になった金融機関は、第1位が野村証券、第2位が三菱東京UFJ銀行、第3位がりそな銀行、第4位がみずほ銀行、第5位が伊予銀行、

第6位が東海東京証券であった。この取組み項目についても、下位グループに証券会社が多かった。

銀行順位における上位4行は、第1位が三菱東京UFJ銀行、第2位がりそな銀行、第3位がみずほ銀行、第4位が伊予銀行であった。

証券会社についての上位3社は、第1位が野村証券、第2位が東海東京証券、第3位が日興コーディアル証券となった。

6-2 コメント評価

四国銀行

- ・従業員に関する取り組みの記述が見当たらず、特に産休・育休についてわからなかった。
- ・採用に関するところすこし載っている程度だった。
- ・間接的ではあるが雇用支援団体に協力している。
- ・株主、法人、消費者へ発信することしか考えてないと思われる。

高知銀行

- ・裁判員休暇を設置。「基準適合一般事業主」の認定を受けている。
- ・資格支援は資料の斡旋くらい。セミナーへの参加や講師の招へいなども。頻度などの記述はなし。
- ・高齢者雇用促進を評価。仕事と家庭の両立に力を入れており、休暇制度が充実している。
- ・記述のみ。こちらもディスクロージャー誌と新卒採用で見え。

高知信用金庫

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・毎年1回の健康診断を行い、成人病等の予防を行っている。
- ・資格支援がすごく充実している。取得は自発的。通信講座や研修がある。
- ・成果主義を押ししているだけ。研修施設・クラブ活動は充実しているようだ。

阿波銀行

- ・海外研修や契約ホテルや契約スポーツ施設などがある。
- ・自己啓発支援や休日自主参加セミナーを実施している。

第4表 従業員に関する取組みの点数評価と順位

	基準評価点						個人 評価点	合計点	順位	
	記述あり				記述の わかり やすさ	検索の 使い やすさ			銀行・ 証券別 順位	総合 順位
	①	②	③	④						
四国銀行	7	1	4	4	7	14	3	40	11	16
高知銀行	17	1	11	8	16	10	10	72	8	12
高知信用金庫	4	4	3	9	6	6	7	39	12	17
阿波銀行	12	1	3	21	17	9	14	77	6	9
徳島銀行	15	1	3	8	11	6	10	54	10	15
百十四銀行	10	1	3	17	15	20	12	74	7	11
香川銀行	15	1	7	13	15	7	11	69	9	13
愛媛銀行	16	2	6	18	16	19	15	90	5	8
伊予銀行	27	3	6	22	20	19	15	112	4	5
みずほ銀行	21	10	15	21	22	23	18	128	3	4
りそな銀行	27	14	8	25	26	25	27	152	2	3
三菱東京UFJ銀行	31	19	18	20	27	27	16	158	1	2
阿波証券	12	0	1	0	4	1	1	17	7	19
香川証券	2	1	2	4	5	2	7	23	6	18
大和証券	7	3	17	12	10	16	11	76	4	10
東海東京証券	15	2	24	20	15	15	12	103	2	6
日興コーディアル証券	17	5	21	17	16	17	11	98	3	7
野村証券	30	29	15	27	27	28	19	175	1	1
三菱UFJ証券	8	3	3	16	10	12	10	58	5	14

- ・資格支援ではないが研修に関しては力を入れて取り組んでいる。
- ・研修等の記述はあったが福利厚生についての記述はなかった。
- ・資格取得の支援体制が整っていたのが印象的であった。

徳島銀行

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・様々な施設がある。
- ・福利厚生はしっかりしているが、資格支援の記述が曖昧。
- ・「とくぎん夜間講座」で行員がスキルアップできる。
- ・採用情報に記述のみ確認。

- ・育児休業、介護休業は評価すべき点だと思う。

百十四銀行

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・様々な制度や施設がある。
- ・資格取得への報奨金制度が行われている。
- ・採用担当者のブログが面白い。

香川銀行

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・復職制度はあるが退職後5年以内というのが気になった。資格支援はしっかりしている。
- ・記念日(スマイル)休暇というユニークな休暇があった。
- ・通信教育を利用した教育は興味深い。

愛媛銀行

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・表彰制度があり、素晴らしい貢献をした個人に上限100万円の報奨金がもらえる。
- ・育児休暇や介護休暇あり。中途採用制度や資格支援制度もある。
- ・従業員の資格支援をしている点が評価できる。
- ・特設のホームページがあり好印象。

伊予銀行

- ・資格取得者に対して奨励支給金を支給する。
- ・年1度社内でテストがある。資格取得者には賞与がもらえる。勉強会はあまりないみたいだった。保育料援助があった。
- ・育児支援制度や資格支援制度あり。
- ・研修やスキルUPが充実。ただし見つけやすいのが採用情報というのが残念。
- ・子育てに対して積極的である。

みずほ銀行

- ・メンタルヘルスケアがある。
- ・障害者雇用率が1.99(2006年度)と法定雇用率を上回っている。

- ・従業員に関する記述が少ない。
- ・採用情報等で確認図解でわかりやすかった。
- ・従業員への取り組みとしてまとめられておらず、ディスクロージャー誌の各所で見られたので見つけるのに苦労した。
- ・資格取得支援は非常に整っているという印象。
- ・メンタルヘルス、人権啓発研修やダイバーシティが非常に評価できる。

りそな銀行

- ・育児休暇などの記述や障害者雇用に関する記述発見できず。
- ・資格取得奨励制度。手話講座・マナー講座。社内スクール。
- ・従業員へのアンケートを評価する。手話講座など仕事以外の面でも充実している。
- ・女性が活躍しやすい職場環境づくりで厚生労働省から表彰されている点、健康への取組みが高い点を評価。
- ・経営トップとの意見交換の場であるタウンミーティングがあるのは良いと思う。
- ・労働環境の整備状況をまとめた図表が見やすかった。また従業員アンケートは非常に評価できる。

三菱東京UFJ銀行

- ・資格取得支援の記述なし。
- ・年3日のボランティア休暇。
- ・育児休業制度を評価する。
- ・E@BOOK形式は大きさの調節がしやすくて見やすかった。また従業員について約3頁にわたって説明しているのはここだけである。
- ・従業員と役員が対話する機会を設けているのが良い。
- ・ディスクロージャー誌にも詳しく書かれ、しっかりとケアしている模様。
- ・育児休業の一部有給化、託児補助制度を評価したい。

阿波証券

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・採用ページに書かれていただけ。
- ・非常にわかりづらい。

- ・一応採用情報も見たが、細かいことはわからなかった。
- ・「先輩の声」的なものがあったので個人評価+1。
- ・育児休業、介護休業があることがわかったが、従業員に関する取り組みは非常に少なかった。

香川証券

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・海外研修がある。
- ・全社員参加の海外研修でリフレッシュと社員交流となっている点を個人評価点として評価した。
- ・福利厚生項目には設備に関する記述しかなかったのが印象的。

大和証券

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・出産1次金(1人目57万円, 2人目57万円, 3人目以降257万円)。
- ・資格ポイント制度。障害者雇用, 190人が働いている。
- ・従業員のスキルアップに力を入れている点が評価できる。
- ・育休取得者の人数を数値で表していてわかりやすい。

東海東京証券

- ・障害者雇用も積極的に行っている。
- ・資格支援がすごく充実している。取得は自発的。通信講座や研修がある。
- ・証券会社は銀行に比べ障害者雇用が進んでいるように思われる。
- ・研修制度が充実しているように感じられた。
- ・育児休業、介護休業もあり、研修制度もある。

日興コーディアル証券

- ・障害者雇用も積極的に行っている。
- ・学校制度で専門スキルを取得。
- ・資格支援が入社間もない頃までしか書かれていない。
- ・女性に配慮の重点が置かれており評価できる。
- ・女性の管理職、役員が増加してきているという記述のなかで説明に用いられた図中にワークライフバランスという言葉があった。

野村證券

- ・障害者雇用を行っている点を評価。
- ・人材育成制度の充実。
- ・カウンセラーがいるが本社だけなのかどうかはわからない。
- ・他と比べて従業員への取り組みがある。資格取得制度。
- ・メンタルヘルスに関する記述が評価できる。
- ・採用情報に記述があった。やはりキャリアUP優先らしい。
- ・従業員に対する資格支援が充実している。

三菱UFJ証券

- ・従業員に関する記述が乏しい。
- ・スキルアップセミナーとして新聞の読み方から指導。探しにくかった。
- ・人材育成の記述が詳しく書かれていた。
- ・記述が少ない。
- ・従業員に関する記述が少ない。
- ・採用情報に記述。キャリアUP優先らしい。

7 環境保全に関する金融CSR活動の調査と評価

環境保全に関する金融CSR活動について、銀行と証券会社の取組みに対して行った点数評価とコメント評価の結果は、次のようになった。点数評価とは、各自が行った点数評価の結果を合計し順位を出したものである。コメント評価とは、それぞれの金融機関について各自が行ったコメントを集計し、抽象的な内容や重複するコメントを削除するなどして、全員で精査して整理したものである。

7-1 点数評価

環境保全に関する取組みの点数評価結果を表にまとめたものが、第5表である(第5表参照)。

この表において基準評価点の「記述あり」とは、①環境負荷の軽減(ペーパー

レス化, 両面印刷, 再生紙, 省エネ, ゴミの削減など), ②環境問題対策に関連する環境関連金融商品や環境関連投資信託の有無, ③世界的環境保全への投資や寄付, ④他の企業と協力して環境保護に取り組むこと, についてのホームページ記述の状況を点数評価したものである。

総合順位で上位6社になった金融機関は, 第1位が三菱東京UFJ銀行, 第2位が四国銀行, 第3位が野村証券, 第4位が徳島銀行, 第5位がりそな銀行, 第6位が百十四銀行であった。これまでと同様に, 下位グループには証券会社が多かった。

銀行順位における上位4行は, 第1位が三菱東京UFJ銀行, 第2位が四国銀行, 第3位が徳島銀行, 第4位がりそな銀行であった。

証券会社についての上位3社は, 第1位が野村証券, 第2位が三菱UFJ証券, 第3位が大和証券となった。

7-2 コメント評価

四国銀行

- ・環境に配慮した事業企画や経営活動を行っていると思う。
- ・絆の森エコローンなど環境関連金融商品を評価した。
- ・環境保全に対する取組みが積極的に行われていると思った。
- ・環境問題に積極的であるように思われる。きちんとシステムの流れが作られている。
- ・ディスクロージャー誌にしっかり活動について記述があり。細かい実績等も書かれていて好感が持てた。
- ・環境に関する取組みは幅広くやっており積極性は評価できる。

高知銀行

- ・環境問題に関しての記述が少なく, 関心の度合いの低さが見られる。
- ・省エネ対策を評価。例としてウォームビズや空調, エレベータの消費電力ついでなどの記載があり具体的。
- ・かろうじてディスクロージャー誌に簡単な記述があるのみで。他行のようにきっちりカテゴリーを作って紹介していない。

第5表 環境保全に関する取組みの点数評価と順位

	基準評価点						個人 評価点	合計点	順位	
	記述あり				記述の わかり やすさ	検索の 使い やすさ			銀行・ 証券別 順位	総合 順位
	①	②	③	④						
四国銀行	31	33	6	31	31	30	26	187	2	2
高知銀行	24	1	1	11	14	8	7	66	10	14
高知信用金庫	2	1	1	1	1	3	1	10	12	17
阿波銀行	6	5	1	11	11	5	9	47	11	15
徳島銀行	42	36	8	17	29	15	28	175	3	4
百十四銀行	34	32	2	20	28	32	23	170	5	6
香川銀行	33	34	2	13	28	10	23	142	9	10
愛媛銀行	36	6	1	14	30	32	26	145	8	9
伊予銀行	17	29	2	20	28	28	24	150	7	8
みずほ銀行	22	31	18	22	30	26	19	168	6	7
りそな銀行	31	27	15	14	35	28	22	172	4	5
三菱東京UFJ銀行	29	29	26	32	31	28	27	200	1	1
阿波証券	0	0	0	0	0	0	0	0	7	19
香川証券	0	1	0	0	1	0	0	2	6	18
大和証券	21	17	12	13	20	22	11	116	3	12
東海東京証券	4	11	2	1	5	10	4	37	5	16
日興コーディアル証券	18	13	7	13	19	17	9	96	4	13
野村証券	39	20	19	18	30	27	26	179	1	3
三菱UFJ証券	22	12	16	17	27	25	22	141	2	11

・環境に関する研究への支援をしている(大学での研究など)。

高知信用金庫

- ・環境問題への対策の記述が見当たらなかった。
- ・環境に関する取り組みが一つもなかった。
- ・信金のイメージは綺麗な建物に緑との調和だったのに…違う。
- ・ディスクロージャー誌に記述のみ。自家発電の機能は良いと思う。

阿波銀行

- ・環境に関する取り組みの記載は少ないように思える。
- ・アドプトプログラム「うちの土手」として清掃活動をしている。

- ・それらしい記述はあるが今回の基準評価に該当するものは見当たらなかった。
- ・環境保護についてふれられておらず意識が低い。
- ・トップページにチームマイナス・6%のバナーがあった。

徳島銀行

- ・環境マネジメントシステム推進体制があり、環境保全に力を入れている。様々な活動をしている。
- ・取組みと実績が記述されていた。
- ・減少量をグラフ化しており、きちんと取り組んでいるのがすぐにわかった。良い。
- ・ディスクロージャー誌だが、実績も合わせてわかりやすく掲載されていた。
- ・環境対策についてたくさん例を載せていたのが取り組みの積極性を感じさせた。
- ・ISO14001の認証を取得している

百十四銀行

- ・積極的に環境保護についての取り組みを行っていると感じた。
- ・チーム・マイナス6%。
- ・トップページに「CSR活動へ取り組み」。屋上緑化や植林ボランティア、リサイクルシステムの確立など、独自で行っているものがある。
- ・記述が詳しくわかりやすい点を評価。
- ・環境に対しての商品について書かれていたのが良かった。
- ・オリーブ債や香川県応援ファンドを独自で作り、取り組んでいる点が良い。

香川銀行

- ・環境に配慮した事業企画や経営活動を行っている。
- ・環境に配慮した商品で寄付金を捻出している。
- ・実施数値を記述しており、未達成でもかなり目標値に近い所まで達成できていた。
- ・環境啓発活動の一環として、子どもたちの環境教育支援を行っているのを評価した。
- ・環境の定期預金があった。
- ・環境対策について目標値を立てて取り組んでいるのに好感が持てたので、個

人評価点で加点した。

- ・環境に配慮した金融商品やサービスが充実している。
- ・低公害車購入の金利優遇がある。

愛媛銀行

- ・環境保全に力を入れているようだが、条件に当てはまる項目を発見できなかった。
- ・マイバッグ・マイ箸・マイカップを評価。
- ・削減数値を出していたが他の年と比較できないのが残念。
- ・「CSRカード」を全従業員が携帯している。トップページに「環境CSR」がある。
- ・使用済み天ぷら油のリサイクルや、カーボンオフセットを個人評価点で2点にした。
- ・基準では評価し切れなかったが地域の植樹への協力が評価でき、資料も見やすい。
- ・環境CSRに積極的な態度がよく伝わってきた。
- ・清掃等の環境保全活動は評価できる。

伊予銀行

- ・環境関連金融商品が充実している。
- ・環境基金「エバーグリーン」は評価できる。
- ・検索しやすい。営業用車両はハイブリッドカー。
- ・天然ガス自動車を営業用車輛として四国の金融機関として初めて導入。
- ・排出権特定金外信託などの購入ニーズに応える商品があるなど先進的。
- ・環境関連金融商品が充実している気がする。

みずほ銀行

- ・大企業なりの資金力で積極的に環境問題対策に取り組んでいる。
- ・エコ公募など大きな取り組みは行っているが、身近な活動が見当たらなかった。
- ・環境関連金融商品が充実している。
- ・社会貢献型というよりは事業活動を通じた環境ビジネス型の活動が多い。
- ・簡単に出来そうな環境負荷の軽減は書かれていない。
- ・社内での取り組みについて、ぜひ数字とともに実績を示して欲しい。

- ・多大な資金を投じていると思う。環境ビジネスを融資で支援という見出しが特に目に付いた。

りそな銀行

- ・環境ボランティアや募金などでも環境問題に取り組んでいる点を評価した。
- ・活動結果が明記されていないため、どの程度取り組んでいるかは不明。
- ・主な活動は①にあてはまる環境負荷軽減活動のようだ。
- ・グループ環境方針を制定している点が好印象だった。
- ・環境保全に関してまとめてある「環境報告」が非常に読みやすかった。

三菱東京UFJ銀行

- ・大企業なりの資金力で積極的に環境問題対策に取り組んでいる。
- ・世界各国への風力発電融資。
- ・環境関連の融資が積極的に行われている点を個人評価。
- ・環境ファンドについての記述を評価できる。
- ・三菱グループホームページ内に5頁弱にわたって説明がある。とくに企業を相手にした活動が注目できる。
- ・行内の環境負荷軽減目標など細かく数値目標を立てて実践している。
- ・金融の講座だけでなく環境の講座も開いていた。
- ・全体的に意欲的に取り組んでいるという印象。細かい数値目標を掲げているのがその証拠。

阿波証券

- ・記述が見当たらなかった。
- ・環境保全に対する取り組みは見られなかった。

香川証券

- ・記述が見当たらなかった。
- ・環境保全に対する取り組みは見られなかった。

大和証券

- ・環境に関しての熱意は感じた。
- ・環境保全に対する取り組みは見られなかった。
- ・森林保育。

- ・環境関連商品について評価できる。
- ・CSRのくくりとして、ホームページに基本的な説明まで載せていて好印象。ただ細かい活動については時系列になっていて見づらかった。
- ・大和証券グループの方に記載があった。漫画のキャラクターを用いていて小さい子供でもわかりやすい内容だが大人が読むには少し物足りない。
- ・参加している、というだけでなくもっと具体的な記述が欲しい。
- ・グループにおける環境負荷に関する記述があった。

東海東京証券

- ・様々な環境関連投資信託がある。
- ・環境関連商品以外の記述が見つからなかった。

日興コーディアル証券

- ・動画による環境への取り組みは発見できたが、記述としては不十分。
- ・2005年「日本環境経営大賞」において証券業界で初めて優秀賞を受賞。
- ・より詳しい記述があればなお良い。
- ・環境関連商品について評価できる。
- ・シティグループでのホームページで紹介。ただし概要のみ。
- ・内容が抽象的で少し具体性に欠けていると思う。

野村證券

- ・自社での環境配慮に積極的に取り組んでいる。
- ・環境活動ワーキンググループの設置。
- ・海外への取り組みが目立った。
- ・東京都地球温暖化対策で最上級評価を受賞。
- ・環境に関する記述が多かったことが評価できる。
- ・証券業界のガリバーといわれるだけあり全体を含め環境保全に関する活動も幅広く、活動の数も多い。全体としてCSR活動が経営戦略として効率よく機能している感じがした。
- ・どの項目も数値を掲げ、具体的にわかりやすく書かれている。

三菱UFJ証券

- ・ISO14001取得。

- ・ISO14001認証取得。「クリーン・エネルギー・ファイナンス委員会」設置。エコ商品を粗品としている。
- ・より具体的な結果が見えればなお良い。
- ・グループとしての取り組みと自社での取り組みと二つあって見やすい。
- ・アジアで「もみから発電」というのは初めて聞いた。独自性のある取り組みで面白いと思う。

8 地域・社会貢献に関する金融CSRの調査と評価

地域・社会貢献の金融CSR活動について、銀行と証券会社の取り組みに対して行った点数評価とコメント評価の結果は、次のようになった。点数評価とは、各自が行った点数評価の結果を合計し順位を出したものである。コメント評価とは、それぞれの金融機関について各自が行ったコメントを集計し、抽象的な内容や重複するコメントを削除するなどして、全員で精査して整理したものである。

8-1 点数評価

地域・社会貢献に関する取り組みの点数評価結果を表にまとめたものが、第6表である(第6表参照)。

この表において基準評価点の「記述あり」とは、①金融・経済教育などの講座の取り組み、②スポーツ、文化活動の奨励、③災害などに対する支援や寄付、④医療や地域活性化などの支援と取り組み、についてのホームページ記述の状況を点数評価したものである。

総合順位で上位6社になった金融機関は、第1位が野村証券、第2位が愛媛銀行、第3位が百十四銀行、第4位が同点順位で伊予銀行と三菱東京UFJ銀行、第6位が四国銀行であった。この取り組み項目においても、下位グループに証券会社が多かった。

銀行順位における上位4行は、第1位が愛媛銀行、第2位が百十四銀行、第3位が同点順位で伊予銀行と三菱東京UFJ銀行であった。大手銀行より地方銀行の健闘が目立った。

証券会社についての上位3社は、第1位が野村証券、第2位が日興コーディアル証券、第3位が大和証券となった。

8-2 コメント評価

四国銀行

- ・地域に密着した活動を積極的に行っていると思う。
- ・災害支援の記述がない点が残念である。
- ・使用済みカード・切手等の収集活動により、発展途上国の発展に協力している。
- ・公益信託「こうちNPO地域社会づくりファンド」に力を入れている。
- ・地域貢献に関しては様々な内容が写真入でわかりやすかった。
- ・様々な団体と提携して社会貢献に取り組んでいる事例が具体的に書かれていてわかりやすい。

高知銀行

- ・ディスクロージャ誌に地域地域密着型経営推計画を掲げているが具体的に当てはまる項目はない。
- ・こうぎんビビットタウンにより、様々な企業をホームページで紹介している。
- ・乳がん検診促進も評価。
- ・寄付や地域振興に役立つ講演会が開催されていた。その他は記述なし。
- ・子供への金融教育や高知県への寄付金贈呈が印象的。
- ・AED設置については他行では見当たらなかったので良いことだと思う。
- ・トピックスにまとめて記載があり記述も全体的にわかりやすかった。
- ・地域イベントに色々参加しているが、インパクトがない。

高知信用金庫

- ・災害時、企業再生の特別復興積立金がある。ロビーに絵画ギャラリー。医療研究への援助。
- ・医学部の研究支援を評価する。記述が少ない。
- ・文字をわざわざ拡大して読むというのが手間であるように感じた。
- ・実績について画像つきでわかりやすかった。とくに他行にはない「街角ギャラリー」は非常に興味深い。

第6表 地域・社会貢献に関する取組みの点数評価と順位

	基準評価点						個人 評価点	合計点	順位	
	記述あり				記述の わかり やすさ	検索の 使い やすさ			銀行・ 証券別 順位	総合 順位
	①	②	③	④						
四国銀行	33	35	6	34	30	28	24	188	5	6
高知銀行	26	12	2	18	18	10	16	98	12	15
高知信用金庫	1	19	11	23	19	12	16	101	11	14
阿波銀行	31	34	10	34	31	9	30	180	6	7
徳島銀行	25	26	2	30	28	15	21	152	9	10
百十四銀行	34	35	5	36	34	32	33	207	2	3
香川銀行	21	37	5	33	29	9	25	159	8	9
愛媛銀行	36	38	7	37	34	32	29	213	1	2
伊予銀行	31	38	14	33	33	28	26	202	3	4
みずほ銀行	30	17	17	10	25	25	15	139	10	11
りそな銀行	28	20	12	26	30	26	26	167	7	8
三菱東京UFJ銀行	33	34	27	23	34	29	22	202	3	4
阿波証券	4	0	0	0	4	0	2	10	6	18
香川証券	0	0	0	1	1	1	1	4	7	19
大和証券	27	19	17	13	21	16	12	125	3	13
東海東京証券	21	21	3	10	15	12	10	90	4	16
日興コーディアル証券	26	17	19	17	23	20	16	138	2	12
野村証券	42	39	32	28	33	28	30	231	1	1
三菱UFJ証券	22	2	1	11	12	14	5	67	5	17

・医療研究の貢献や「街角ギャラリー」として各店に絵画や彫刻を置いているのが他行と違って面白い。

阿波銀行

- ・地域企業に対する支援、金融教育という点では良いと思う。
- ・学術・芸術部門それぞれに助成金を出し地域貢献している。
- ・取り組みが多数ある。地域発展に力を入れていることがわかる。
- ・医療経営支援サービスを行っており、資金調達や経営に関する相談を行っている。
- ・写真と共に多種の活動が記載されていて地域貢献活動への積極性が見られる。無料ギャラリーの阿波銀プラザという取り組みが面白いので評価。

- ・地域密着型金融推進計画を具体的に設定し、実行していこうとしている点が良かった。力を入れていると感じる。もっとページを割いて伝えてほしい。
- ・地域発展に非常に貢献していると思う。スポーツマンの僕としては多くのスポーツ大会を主催していることに好印象をもった。

徳島銀行

- ・セミナーが多いが地域の人向けは少ない。地域貢献は他と比べ少ないが発展途上国の福祉支援を行っている(使用済み切手)。
- ・各種セミナーや高齢者の生涯学習を助成している。
- ・積極的な資金提供や経営支援によって地域活性化に貢献していると思った。
- ・写真を使うことにより伝わりやすかったと感じた。
- ・貢献する対象をはっきりと意識して取組んでいると感じた。
- ・取り組み事例も挙げられていて姿勢は伝わってきたが、どこか物足りないといった印象。

百十四銀行

- ・全体的に多くの活動を行っているだけでなく調べやすい。不祥事が気になるところではある。
- ・AEDの設置。
- ・金融教育や地域活性化の取り組みが多い。
- ・地域活性化の支援や取り組みが積極的に行われていると思った。
- ・医療や介護の支援に力を入れており高評価にした。
- ・様々な取組みをしていることが写真からもうかがえた。
- ・近年注目されている医療・介護に対する支援に力が入っている。
- ・写真と文字で多くの取り組みが載せられている。
- ・「エコノミクス甲子園・四国大会」は高校生が金融を学ぶ良い場だと思う。文字と写真がセットになっていて非常に見やすかった。

香川銀行

- ・検索が非常に面倒に感じた。地域貢献の内容としては充実している。
- ・香川海外交流財団などの海外交流の取り組みを評価。今後に期待できそう。
- ・金融教育は実施していないようだ。ヨガ教室・KNBCなど変わったものがあった。

- ・医療支援にも力を注いでいるように感じた。海外交流財団や教育相談コーナーを評価。
- ・スポーツ支援に力を入れている点が評価できる。
- ・ディスクロージャー誌にCSRとして地域貢献のコーナーが作ってあった。
- ・よろず教育相談センターという取り組みが実にユニーク。相談数を集計し、今後どうすべきかを記載しているのは好印象。

愛媛銀行

- ・トップページにCSR活動がある。様々な取り組みをしている。
- ・媛銀CSR倶楽部の記述あり。
- ・音楽部が出張演奏していた。多方面へ取り組んでいる。
- ・具体的に記述されている点を評価。
- ・「えひめガイヤファンド」や「愛媛県応援ファンド」というのが独自の、地元の現状にマッチングしたものだと思った。
- ・具体的事例が書かれていてわかりやすい。
- ・職場体験学習を受け入れているのが特に印象的だった。

伊予銀行

- ・医療や福祉に関する取組みが充実している。
- ・イカノオスシダーによる防犯普及活動の実施。
- ・イベントの開催が多い。
- ・地域貢献に関する記述が多い点が評価できる。
- ・いくつかのトピックの分けての説明がわかりやすかった。画面も見やすく良い。
- ・点字カレンダー寄贈や福祉機器の贈呈など、比較的福祉関係に力を入れているような気がした。
- ・活動が多岐にわたり充実している。どれを見ても評価に値する活動ばかりだったので、高得点をつけた。
- ・多彩な活動を行っている点を評価したい。

みずほ銀行

- ・震災ファイナンスで災害復旧への取り組みを評価。
- ・国際的な社会貢献活動を行っている点を個人評価。

- ・NPOと連携して海外での活動に取り組んでいる。
- ・地域貢献に関する記述が少ない。
- ・メガバンクなので地域密着型の活動はやりにくいのかなと思った。
- ・国内外で金融教育を幅広く行っていることは評価できる。

りそな銀行

- ・子ども110番活動, 大きな取り組みの他に地域のお祭りへの参加などもあった。
- ・金融教育に力を入れている感じ。意外に地域活性化にも貢献している。
- ・TABLE FOR TWO運動によって, 発展途上国の社会貢献をしている点と国連責任投資への署名は評価できる。
- ・地域貢献に関する記述が少ない。
- ・金融教育のプログラムが複数あり充実していた。

三菱東京UFJ銀行

- ・地域社会の寄付, ボランティア支援が積極的に行われている点を個人評価。
- ・地域貢献に関する記述が多い点が評価できる。
- ・震災時発動型融資予約スキームはよい企画だと思う。
- ・環境保全同様, グローバルに展開している。その分①が弱いように感じた。
- ・全体的に充実している。ジョブシャドウの実施のように金融教育プログラムは特に充実しているように思える。
- ・各営業拠点での従業員参加型の地域貢献活動が充実している。

阿波証券

- ・記述なし。
- ・記述発見できず。サイト内検索がない上にサイトマップもないのでCSRの具体的活動について調べることが出来なかった。CSRに対して前向きさが感じられなかった。

香川証券

- ・記述がない。
- ・香川県応援ファンドで地元貢献。

大和証券

- ・地元のお祭りのサポート・手話教室など。

- ・ボランティア活動や協賛。ダイワSRIファンド助成プログラムを評価。
- ・海外での支援体制が整っている印象で評価できる。
- ・金融教育に力を入れている点が評価できる。
- ・スマトラ沖地震及びインド洋津波の復興策として「大和証券グループ津波復興基金」を設立した。

東海東京証券

- ・全国各店舗でボランティアの日を設け活動している。
- ・美術館や相撲など様々なイベントに協賛している。
- ・教育支援に力を入れていて評価できる。今後の継続的実績に期待。
- ・金融教育に力を入れている点が評価できる。
- ・特色のある業務・活動・イベントに記載あり。活動しているならもっとアピールしてもいいのではと思った。

日興コーディアル証券

- ・動画のCSR参照。
- ・地域・社会貢献に対する取り組みは見られなかった。
- ・講演会など。
- ・さまざまな災害の支援を行っている。
- ・金融教育に力を入れている点が評価できる。
- ・シティグループだけに活動も日本にとどまらず世界に向いているなど感じた。
- ・活動が多岐に渡るうえに、範囲が日本に留めていないのが印象的だった。

野村證券

- ・日本も含め各国で様々な社会貢献活動をしている。
- ・金融学習が4割。2割が芸術支援。
- ・とてもわかりやすい。社会貢献に力を入れていることがわかった。
- ・全てにおいて高水準にある。証券会社の印象を良い意味で裏切ってくれた。
- ・野村證券が社会貢献の中でも特に力を入れている部分が良くわかる内容だった。
- ・見出しと詳細が区別され見つけやすく、読みやすく配慮されている。

三菱UFJ証券

- ・金融教育について書かれていたが、他は力を入れていない感じ。

- ・ネット上での金融に関する講座が良い。
- ・アジアの子どもたちの絵日記展が興味深い。
- ・小中学生を対象に体験学習を行ったという記述のみで内容が良くわからない。
そのほかの活動についての記述はなかった。

9 銀行と証券会社の金融CSR活動についての総合点数評価

これまで五つの評価分野のそれぞれについて銀行と証券会社に対する点数評価を試みてきた。これらの点数評価を合計して、総合点数評価を集計してみた。その結果を表にまとめたものが、第7表である(第7表参照)。

第7表 総合点数評価

	コンプライアンスに関する取組み	顧客・消費者に関する取組み	従業員に関する取組み	環境保全に関する取組み	地域・社会貢献に関する取組み	総合合計点	順位	
							銀行・証券別順位	総合順位
四国銀行	160	143	40	187	188	718	6	7
高知銀行	150	77	72	66	98	463	11	14
高知信用金庫	73	67	39	10	101	290	12	17
阿波銀行	160	117	77	47	180	581	9	10
徳島銀行	122	110	54	175	152	613	8	9
百十四銀行	206	199	74	170	207	856	3	4
香川銀行	99	67	69	142	159	536	10	11
愛媛銀行	91	112	90	145	213	651	7	8
伊予銀行	114	174	112	150	202	752	5	6
みずほ銀行	192	196	128	168	139	823	4	5
りそな銀行	193	203	152	172	167	887	2	3
三菱東京UFJ銀行	166	182	158	200	202	908	1	2
阿波証券	1	7	17	0	10	35	7	18
香川証券	18	10	23	2	4	57	6	19
大和証券	60	69	76	116	125	446	4	15
東海東京証券	79	80	103	37	90	389	5	16
日興コーディアル証券	69	110	98	96	138	511	2	12
野村証券	208	120	175	179	231	913	1	1
三菱UFJ証券	119	115	58	141	67	500	3	13

総合点数順位で上位6社になった金融機関は、第1位が野村證券、第2位が三菱東京UFJ銀行、第3位がりそな銀行、第4位が百十四銀行、第5位がみずほ銀行、第6位が伊予銀行であった。総合点数評価においても、下位グループに証券会社が多かった。

銀行順位における上位4行は、第1位が三菱東京UFJ銀行、第2位がりそな銀行、第3位が百十四銀行、第4位がみずほ銀行であった。

証券会社についての上位3社は、第1位が野村證券、第2位が日興コーディアル証券、第3位が三菱UFJ証券であった。

[参考文献]

- 紀国正典 [2006] 「金融の公共性・国際公共性諸学説の検討(4) —社会的責任投資(SRI)と社会的責任金融(SRF)—」高知大学経済学会『高知論叢』第87号, 2006年11月。
- 紀国正典 [2007] 「国際的責任金融(IRF)」立命館大学国際関係学会『立命館国際研究』19巻3号, 朝日(関下)教授退職記念号, 2007年3月。
- 紀国正典 [2007] 「日本における金融CSRの現状と活動(1) —金融庁「金融機関のCSR実態調査」のCSR事例分析(銀行編)—」高知大学経済学会『高知論叢』第88号, 2007年3月。
- 紀国正典 [2007] 「日本における金融CSRの現状と活動(2-1) —金融庁「金融機関のCSR実態調査」のCSR事例分析(信金・信組・労金編)—」高知大学経済学会『高知論叢』第89号, 2007年7月。
- 紀国正典 [2007] 「日本における金融CSRの現状と活動(2-2) —金融庁「金融機関のCSR実態調査」のCSR事例分析(信金・信組・労金編)—」高知大学経済学会『高知論叢』第90号, 2007年11月。
- 紀国正典 [2007] 「顧客勧誘方針に対する金融機関の社会的責任意識の調査と評価(2007) —高知市所在金融機関の顧客勧誘方針の公表状況と内容の検討—」高知大学経済学会『高知論叢』第90号, 2007年11月。
- 紀国正典 [2008] 「日本における金融CSRの現状と活動(3-1) —金融庁「金融機関のCSR実態調査」のCSR事例分析(証券会社等編)—」高知大学経済学会『高知論叢』第91号, 2008年3月。
- 紀国正典 [2008] 「日本における金融CSRの現状と活動(3-2) —金融庁「金融機関のCSR実態調査」のCSR事例分析(証券会社等編)—」高知大学経済学会『高知論叢』第92号, 2008年7月。
- 紀国正典 [2008] 「日本における金融CSRの現状と活動(4) —金融庁「金融機関のCSR実態調査」のCSR事例分析(保険会社編)—」高知大学経済学会『高知論叢』第

93号, 2008年11月。

紀国正典[2009]「金融機関の社会的責任活動(金融CSR)についての調査と評価(2007) —高知市所在銀行に対する学生による金融CSR評価の試み—」高知大学経済学会『高知論叢』第94号, 2009年3月。

NHKクローズアップ現代「個人年金保険トラブルを避け」2005年11月10日放映。

NHKスペシャル「環境異変：前編・後編」2006年2月18・19日放映。

NHKクローズアップ現代「社会貢献ビジネス」2007年2月21日放映。

NHKクローズアップ現代「社会に役立つ投資」2007年5月19日放映。

テレビ高知「地球の危機を救うお金の使い方」2007年9月3日放映。

NHKクローズアップ現代「自分のお金を生かす市民金融」2008年1月17日放映。

